



## 「助け合う関係づくり」

(幸せをめざして PART 43)

園長 小野 真

今年1月1日16時40分頃発生した能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県の復旧・復興が進められています。その、後押ししようと全国からボランティア活動の輪が広がり、災害見舞金や食料などの物品が贈られています。

石川県内では約1万4千人が避難生活を続けています。早期に普段の生活にもとれることとお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたします。

東日本大震災の時『岩手県釜石市の沿岸部にある9つの小中学校は、児童生徒の避難率がほぼ100%で「釜石の奇跡」と呼ばれ成功例として注目を集めています。

9校はいずれも浸水エリア内かその近くにあり、3校が全壊しました。児童生徒の半数近くの自宅が被災し、6割近くが家族や親類を亡くしている厳しい状況でした。

この地域は、以前津波で甚大な被害を受けました。ですから同市では津波が発生した時の避難訓練を群馬大学の片田敏孝教授の指導により何回も行っていたそうです。

当日の避難行動について調査したところ、児童生徒のほぼ全員が、自分の判断や教師の指示などにより「地震の揺れがおさまった直後、すぐに避難を開始した」と回答したそうです。学校にいた児童生徒の多くは「上履きのまま走って逃げた」とし、「逃げることに一生懸命で、津波は見なかった」と答えた児童生徒も多数とのことです。

全児童が在籍していた唐丹小学校は津波で全壊しましたが、「全員が高台に避難後、津波警報を聞いた」といいます。さらに、地震直後に避難を開始したことで時間的余裕が生じたことから、「避難をしる祖父母や父母を説得し避難させた」「体の不自由な同級生をおぶって逃げた」「低学年の児童や幼稚園児の手を引いて逃げた」など、周囲の人の避難を誘導している様子も随所にみられたそうです。

このような自然災害から身を守る準備や取組をしておくこと、つまり「防災」の必要性を改めて痛感させられます。「虹の家での防災」は何と言っても「避難訓練」です。「釜石の奇跡」は、普段から真剣に訓練を行ったことで命が救われたという素晴らしい成功事例です。「地域での防災」は、地域での防災訓練の実施や避難場所の確認など町内会等で行われていると思います。

私は、防災で最も大切だと思うことは、「助け合う関係づくり」と考えています。災害が起こったときに助け合えるような関係を地域の人や友だちとつくっておくことが重要だと思います。

日頃から近所の人や事業所での仲間同士で声かけやあいさつの輪を広げることで相手の顔がよく見えてきます。町内にどんな人がいるのかが分かりますそして、相手も覚えてくれます。何かあったとき「あの子、あの人大丈夫かな」と心配してくれます。「あいさつ」や「声かけ」を通して助け合う人と人とが繋がって大きな絆となる関係づくりはとても大切なことです。「あいさつ」が胎内市の「目に見えない防災」となっていくものと願っています。

## 2月の行事予定

1日(木)全体朝礼(園長のお話) 16日(金)30分早上がり

2日(金)節分行事(鬼登場) (職員研修のため)

6日(火)ライオンズクラブ 19日(月)誕生会・自治会活動

ボーリング大会

27日(火)保護者会視察研修

9日(金)工賃支給日

能登半島地震の復興を願って募金活動をしました。



紅白玉で「鬼は外」「福は内」!

